

事業所における自己評価結果表(公表)

児童発達支援センター くるーる 【実施日:平成31年1月4日】

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容または改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7	1	・身体障害のある子どもがいるため、パーティションのスペースも広く取っている ・基準を把握していないが、遊びスペースはもう少し	
	2 職員の配置数は適切である	8	0	・※各員休日との関係で手薄な日があり。 ・職員が欠勤した時に代わりに入る職員がいない ・時々手が足りない時がある	
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	9	0	・クラスの部屋はパーティションで仕切りどこで何をするかを明確にしている。各利用児の理解に合わせたスケジュールを活用している	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	9	0	・改善点もある	
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6	3	・クラスに固定されたスタッフだけでなく、クラスを担当するスタッフにも本日の内容として療育前に話し、伝えて共有する。 ・各員間の話し合いは少ない。管理者レベルでは少ない ・業務時間、内容を記入した紙(11月)はどうなったか。また何かの形で振り返りができたら ・支援計画で目標を設定し話し合っている	
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7	2	・アンケートを確認後、話し合いをしていない ・保護者評価をインターネット(ホームページ)に掲示しているが、スタッフがしてるか掲示板から常にアクセスするようにできないか	
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ	7	1		
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	5	3		
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	9	0	・今年度の研修の充実は良かった ・たくさん研修の機会をありがとうございます ・もっと参加したい	
10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	8	0			
11 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	9	0			
12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	4	4	・発達支援、家族支援、地域支援に必ずしも分類してない		
13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	9	0			
14 活動プログラムの立案をチームで行っている	8	1			

事業所における自己評価結果表(公表)

児童発達支援センター くるーる 【実施日:平成31年1月4日】

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容または改善目標
適切な支援の提供	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	9	0	・同じスタッフが対応するために、情報を	
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで児童発達支援計画を作成している	9	0	・休憩場面でもクラスの子の話や今後の計画について等話し合っている	
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6	3	・パートの方にも情報は共有している ・勤務の関係や日中一時の把握でできない時とある ・休憩場面でもクラスの子の話や今後の計画について等話し合っている ・できている日と、十分にできていない日もある	
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6	2	・個別会議録の用紙を用いて振り返る ・できている日と、十分にできていない日とある ・会議・送迎ですれ違ったりできないことが多い	
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	9	0	・個別会議録とケースに記入	
	20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	7	1		
関係機関や保護者との連携	21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7	1	・勤務上、他クラス担当スタッフが出ることもあるが引き継ぎをしている	
	22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	7	1		
	23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	6	1	・事例なし	
	24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	5	2	・ケースファイルにはあるが覚えていないため、今後工夫していく ・事例なし	
	25 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	9	0	・保育所等訪問支援にて ・スクラム会議が非常に効果的	
	26 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7	1	・就学前のケア会議にて	
	27 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	5	・現場職員レベルでは少ない ・他機関との関わりは機会があれば作りたい	
	28 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	6	2	・定期的なイベント等	
	29 (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども子育て会議等へ積極的に参加している	4	4	・個人的にはできていない ・現場スタッフからの参加はまだない	
	30 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	9	0	・療育後の保護者対応にて ・難しいところではあるが	
	31 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	7	1	・個人的にはできていない ・定期的に(入れ替わりでも)スタッフが参加する機会があれば	

事業所における自己評価結果表(公表)

児童発達支援センター くるーる 【実施日:平成31年1月4日】

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容または改善目標
保護者への説明責任等	32 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6	1		
	33 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	8	0		
	34 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7	0	・定期的な設定はしていないが必要に応じて相談に応じている。	
	35 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援して子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	6	2	・ぶどうの会	
	36 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	8	0	・管理者と相談しながら行っている	
	37 個人情報の取扱いに十分注意している	4	4		
	38 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8	0		
	39 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に関われた事業運営を図っている	8	0	・定期的なイベント	
	40 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	8	0	・感染症に対応する訓練はしていない	
	41 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4	4	・月に1回行っている ・月1回避難訓練(地震、火事)を実施しているが、避難場所まで行けていない	
非常時等の対応	42 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	9	0		
	43 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	8	1		
	44 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	9	0	・事例集はない。新人研修等で過去のヒヤリハット等の共有、対応についても良いのでは	
	45 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	9	0	・知りたい	
	46 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	8	0	・身体拘束の事例は現在ない	
	47	7	0		